

E31 複数の要因が考えられる例

90歳の男性。X年1月28日午後11時頃、自宅浴槽内で、顔を湯につけた状態で死亡しているのを妻が発見した。午後9時前に入浴していたが、風呂から出てこないため、不審に思った妻が様子を見に行き発見したという。

死者は約20年前から高血圧にて投薬を受けている。歩行はやや不自由だが、日常生活には支障なかったという。鼻腔・口腔から細小泡沫が流出する。死後CT検査では頭蓋内の出血はなかった。血液から一酸化炭素ヘモグロビンは検出されない。警察の検視では、犯罪の可能性は否定的である。

この場合に発行する書類、「死亡の原因」「死因の種類」の記載例を示します。

【適切な記載1】

(14)	死亡の原因 ◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	施設の名称			
		(ア) 直接死因	溺死	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	短時間
		(イ) (ア)の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	
		(ウ) (イ)の原因			
(エ) (ウ)の原因					
	直接には死因に関連しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等	高血圧		約20年	
	手術	①所 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和 年 月 日
	解剖	①所 2有	主要所見		
(15)	死因の種類 1 病死及び自然死 外因死 不慮の外因死 { 2 交通事故 3 転倒・転落 ④ 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 } { 6 窒息 7 中毒 8 その他 } その他及び不詳の外因死 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 12 不詳の死				
(16)	外因死の追加事項 ◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したとき 平成 昭和 X 年 1 月 28 日 午前 午後 9 時 頃分 傷害が発生したところの種別 ① 居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 () 手段及び状況 自宅の浴槽内で、顔を湯につけた状態で発見されたという。	傷害が発生したところ ○○ 都道府県 △△ 市区町村		

【適切な記載 2】

(14)	死亡の原因 ◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	施設の名称		発病(発症)又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例:1年3か月、5時間20分)	短時間 短時間 不詳 約20年	
		(ア) 直接死因	窒息			I (イ) (ア) の原因 (ウ) (イ) の原因 (エ) (ウ) の原因
		(イ) (ア) の原因	溺水吸引			
		(ウ) (イ) の原因	不詳			
		(エ) (ウ) の原因	高血圧			
II 直接には死因に関与しないがI欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等		高血圧				
(15)	手術	① 有 2 有 部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和		
	解剖	① 有 2 有 主要所見				
(16)	死因の種類	1 病死及び自然死 外因死 不慮の外因死 { 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 } { 6 窒息 7 中毒 8 その他 } その他及び不詳の外因死 { 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因 } ⑫ 不詳の死				
	外因死の追加事項	傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分 傷害が発生したところの種別 1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 () 傷害が発生したところ 市 区 町 村 都道府県 ◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください 手段及び状況				

疾病の経過、死因の記載、手術の記載、解剖の記載、死因の種類、外因死の追加事項

【適切な記載 3】

(14)	死亡の原因 ◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	施設の名称				
		I	(ア) 直接死因	窒息	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	短時間
			(イ) (ア)の原因	溺水吸引		短時間
			(ウ) (イ)の原因	虚血性心不全(推定)	◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	不詳
			(エ) (ウ)の原因	高血圧		約20年
	II	直接には死因に関係しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等				
	手術	① 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和	
	解剖	① 2有	主要所見			
(15)	死因の種類	① 病死及び自然死 外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死				
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき 平成 昭和 X年 1月 28日 午前 午後 9時 頃分 傷害が発生したところの種別 ① 居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 () 手段及び状況 自宅の浴槽内で、顔を湯につけた状態で発見されたという。	傷害が発生したところ ○○ 都道府県 △△ 市 〇 区 〇 町村			

【適切な記載 4】

(14)	死亡の原因	(ア) 直接死因	入浴中の死亡 詳細不明	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	短時間		
	◆1欄、2欄ともに病患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つ一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	(イ) (ア)の原因					
		(ウ) (イ)の原因					
		(エ) (ウ)の原因					
手術	①無 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和 年 月 日			
解剖	①無 2有	主要所見					
(15)	死因の種類	1 病死及び自然死 外因死 不慮の外因死 { 2 交通事故 3 転倒・転落 4 溺水 5 煙、火災及び火焔による傷害 } 6 窒息 7 中毒 8 その他 ②不詳の死 9 自殺 10 他殺 11 その他及び不詳の外因					
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県 市区町村		
	◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したところの種類	1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()				
		手段及び状況					
(17)	生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重	グラム	単胎・多胎の別	1 単胎 2 多胎 (子中第 子)	妊娠週数	満 週
		妊娠・分娩時における母体の病態又は異状	母の生年月日	平成 年 月 日 昭和 年 月 日	前回までの妊娠の結果	出生児 人 死産児 胎 (妊娠満22週以後に限る)	
(18)	その他特に付言すべきことから	自宅の浴槽内で、顔を湯につけた状態で発見されたという。詳細は不明である。					

【解説】

この例では、検案のみでの死因の判断については、意見が分かれると思います。
記載例1のように、「溺死」と判断する考え方、記載例2のように、「溺水吸引」はあるが、「その原因が特定できない」とする考え方、記載例3のように、基礎疾患による発作が生じ、溺水を吸引したと推定する考え方、記載例4のように、内因、外因の関与が判断できないとする考え方もあります。これらは、個別の事例での判断となります。

「死亡の原因」のⅡ欄についても、意見が分かれるかもしれません。高血圧の関与の度合いについては、個別に判断する必要があります。

記載例3では、死因の種類が「1. 病死及び自然死」ですが、「死亡の原因」欄に損傷名等が記入された場合には、「外因死の追加事項」欄も可能な範囲で記載します。

このような事例では、死因の正確な判断のために、法医解剖を含む詳細な検査が必要なが多いと思います。

E32 高度損傷

45歳の男性。X年1月28日午前11時頃、工場内でプラスチックを破砕する機械に巻き込まれたという。回転するローラーに挟まれた状態で、頭部及び体幹部が強く圧迫、挫滅される。通報を受け、消防隊員が救出活動を行ったが、全身の挫滅が高度で、午後1時に死亡が確認された。

死者は生来健康で、既往症はない。血液からアルコールや薬物は検出されない。警察の検視では、作業中の事故と判断された。

この場合に発行する書類、「死亡の原因」「死因の種類」の記載例を示します。

【適切な記載】

	施設 の 名 称			
(14)	死亡の原因 ◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	(ア) 直接死因	外傷性ショック	短時間
		(イ) (ア)の原因	全身挫滅	短時間
		(ウ) (イ)の原因		
		(エ) (ウ)の原因		
	目	直接には死因に関係しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	
	手術	部位及び主要所見 ①無 2有	手術年月日 平成 昭和 年 月 日	
	解剖	主要所見 ①無 2有		
(15)	死因の種類	1病死及び自然死 外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 ⑧その他 } その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死		
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき ⑨昭和 X年 1月 28日 ⑩午後 11時 頃分 傷害が発生したところの種類 1住居 ⑪工場及び建築現場 3道路 4その他 () 手段及び状況 工場で作業中、機械に巻き込まれたという。		

【解説】

「死亡の原因」の記載に苦慮するかもしれません。

頭部及び体幹部が強く圧迫され、脳、心臓、肺といった主要臓器が高度な損傷をきたしていると考えられ、「全身挫滅」としています。特に損傷が著しい場合には、例えば「ア) 頭蓋内損傷」「イ) 頭蓋砕骨骨折」という表現でもよいと思います。

E33 胃潰瘍穿孔

68歳の男性。以前から空腹時の心窩部痛を感じていた。

X年5月10日、2日前から続く腹痛が増強し、動けないため救急車を要請して総合病院に搬送された。

筋性防御がみられ、腹部単純X線写真から遊離ガスが確認され、白血球数やCRP値の上昇、腹部CT検査の所見から、消化管穿孔による汎発性腹膜炎が疑われたため、緊急開腹手術となった。

手術にて、胃の穿孔と腹膜炎が確認され、穿孔部閉鎖術と腹腔ドレナージ術を行った。手術1週間後に多臓器不全を併発し、その約3日後に死亡した。

この場合に発行する書類、「死亡の原因」「死因の種類」の記載例を示します。

【適切な記載】

(14)	死亡の原因 ◆1欄、2欄ともに病態の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ◆ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	施設の名義			
		(ア) 直接死因	多臓器不全		約3日
		(イ) (ア)の原因	汎発性腹膜炎	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約10日
		(ウ) (イ)の原因	胃潰瘍穿孔	◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	約12日
		(エ) (ウ)の原因			
	目	表欄には死因に関与しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等			
	手術	1無 ②有	部位及び主要所見 穿孔部閉鎖術、腹腔ドレナージ	手術年月日 昭和 X年5月10日	
	解剖	①無 2有	主要所見		
(15)	死因の種類	①病死及び自然死 不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火輪による傷害 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11 その他及び不詳の外因 12不詳の死			
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分 傷害が発生したところの種類 1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他() 傷害が発生したところ 市 区 町 村 都 道 府 県 ◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください 手段及び状況	傷害が発生したところ 市 区 町 村 都 道 府 県		

【解説】

本文からは、直接死因は「多臓器不全」、その原因は、胃潰瘍の穿孔による汎発性腹膜炎と考えられます。

死亡の原因については、医学的因果関係に従って、死亡に至る病態について、可能な範囲で詳細な記載をお願いします。

E34 肝硬変

65歳の男性。大酒家。約10年前にアルコール性肝硬変を指摘されていたが、無治療で飲酒も継続していた。5月20日、38.5℃の発熱と腹痛にて病院を受診、入院となった。

腹水が混濁しており、培養検査で血液、腹水の両方から大腸菌が検出された。消化管穿孔などの所見はなく、肝硬変に起因する特発性細菌性腹膜炎と診断され、抗菌剤による治療を受けるも、敗血症性ショックにより、2日後に死亡した。

この場合に発行する書類、「死亡の原因」「死因の種類」の記載例を示します。

【適切な記載】

(14)	死亡の原因 ◆1欄3欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	施設の名義			
		(ア) 直接死因	敗血症性ショック		約2日
		(イ) (ア)の原因	特発性細菌性腹膜炎	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	不詳
		(ウ) (イ)の原因	アルコール性肝硬変	◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	約10年
	(エ) (ウ)の原因				
	目	直前には死因に関連しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等			
	手術	①無 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和 年 月 日
	解剖	①無 2有	主要所見		
(15)	死因の種類	①病死及び自然死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火傷による傷害 } 外因死 { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 } 12不詳の死			
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府市区町村
		傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()		
		◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください 手段及び状況			

【解説】

病院で治療を受けていたが、死亡した事例です。

本文からは、直接死因は「敗血症性ショック」、その原因は、アルコール性肝硬変を基礎とした特発性細菌性腹膜炎と考えられます。

死亡の原因については、死亡に至る病態について、可能な範囲で詳細な記載をお願いします。また、発症時期が不明な場合は「○日位」と幅を持たせる場合や、発症時期が特定できない場合は「不詳」も可能です。

E35 胃癌

75歳の男性。健康診断で胃幽門部に腫瘍を指摘された。入院して検査を行ったところ、胃癌であることが判明し、手術となった。

手術（胃垂全摘術、平成X年8月10日）では、リンパ節への転移もみられず、病理学的に腺癌であった。術後経過は良好で退院となった。手術1年半後の検査で、再発が確認され、治療を受けるも初診から約2年4か月後に死亡した。

この場合に発行する書類、「死亡の原因」「死因の種類」の記載例を示します。

【適切な記載】

(14)	死亡の原因 ◆1欄3欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の病病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	施設の名義			
		(ア) 直接死因	胃幽門部腺癌	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約2年4か月
		(イ) (ア)の原因			
		(ウ) (イ)の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください。1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	
	(エ) (ウ)の原因				
	目	直前には死因に関与しないが1欄の病病経過に影響を及ぼした病病名等			
	手術	1無 2有	部位及び主要所見 胃垂全摘術、胃幽門部に腺癌、リンパ節転移なし	手術年月日 X年8月10日	昭和
	解剖	1無 2有	主要所見		
(15)	死因の種類	①病死及び自然死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火傷による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 } 12不詳の死			
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ 1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()	傷害が発生した都道府県 市 区 町村	都道府県 市 区 町村
	◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	手段及び状況			

【解説】

本文からは、直接死因は、「胃腺癌」の再発による死亡と考えられ、直接死因が原死因となると思われます。

癌については病理学的診断名や部位についての情報についても、可能な範囲で詳細な記載をお願いします。また、発症時期については、癌などの場合は初診（あるいは検診等での発見時期）としてよいと思います。

E36 脳塞栓

75歳の男性。自宅で立ち上がれなくなり、病院に搬送され、脳梗塞と診断された。左半身に軽度の麻痺があり、入院治療により改善した。発症時期不明の心房細動があり、塞栓による脳梗塞と考えられた。

1週間後、朝から意識障害がみられ、緊急のMRI 検査で左大脳の広汎な脳梗塞と診断され、治療を受けるも2日後に死亡した。心房細動に起因する塞栓性脳梗塞と判断された。

この場合に発行する書類、「死亡の原因」「死因の種類」の記載例を示します。

【適切な記載】

(14)	死亡の原因 ◆1欄、2欄ともに病態の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにししてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	施設の名称			
		(ア) 直接死因	左大脳広範囲脳梗塞	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約2日
		(イ) (ア)の原因	心房細動	◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	不詳
		(ウ) (イ)の原因	(エ) (ウ)の原因		
	手術	① 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和
	解剖	① 2有	主要所見		
(15)	死因の種類	① 病死及び自然死 ② 不慮の死 ③ 不慮の死以外の死 ④ 自殺 ⑤ その他及び不詳の死			
(16)	外因死の追加事項	① 傷害が発生したとき ② 傷害が発生したところの種類 ③ 手段及び状況			

【解説】

本文からは、直接死因は、「脳梗塞」による死亡と考えられますが、その原因として、心房細動からの塞栓が考えられる事例です。

病態を考える上で、心房細動の影響が大きいと考えられる場合には、医学的因果関係に従って、可能な範囲で詳細な記載をお願いします。

E37 詳細検査中

75歳の男性、転倒し、大腿骨近位部骨折で入院した。5日後に人工骨頭置換術を施行となった。麻酔導入後に血圧低下と心停止を来し、救命措置を実施するも死亡した。心エコー検査から、肺動脈血栓塞栓症の可能性が考えられたが、原因は確定していない。

解剖を実施予定であるが、確定診断には2週間程度必要であるとのことで、暫定的に死亡診断書を発行することとなった。

この場合に発行する書類、「死亡の原因」「死因の種類」の記載例を示します。

【適切な記載】

(14)	死亡の原因	施設の名称	(ア) 直接死因 不詳(詳細検査中)	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	不詳	
	◆1欄3欄ともに直前の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください	I	(イ) (ア) の原因	◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間30分)		
		II	(ウ) (イ) の原因			
		III	(エ) (ウ) の原因			
	◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	直前には死因に関与しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等	手術	①無 ②有	部位及び主要所見	手術年月日
解剖	1無 ②有	主要所見 剖検中				

(15)	死因の種類	1病死及び自然死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 6窒息 7中毒 8その他 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 ⑩不詳の死				
------	-------	---	--	--	--	--

(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ 1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()	傷害が発生したところ 市 区 町村	都道府県 郡
◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	手段及び状況				

(17)	生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重 グラム	単胎・多胎の別 1単胎 2多胎(子中第 子)	妊娠週数 満 週	前回までの妊娠の結果 出生児 人 死産児 胎 (妊娠満22週以後に限る)
	妊娠・分娩時における母体の病歴又は異状	母の生年月日			
1無 2有	3不詳	平成 年 月 日 昭和			

(18) その他特に付言すべきことから
 大腿骨近位部骨折の手術の麻酔導入時に状態が急変したという。死因の詳細は検査中である。

【解説1】

解剖による正確な死因判断が行われる予定ですが、確定診断まで時間を要するため、暫定的に死亡診断書を作成する場合があります。

死亡診断書・死体検案書の記載内容について、詳細な検査を要するなど、死因の確定までに時間を要する場合には、死因については「不詳（詳細検査中）」として、後日、申し出により訂正が受け付けられます。

【解説2】 死亡診断書等の誤記訂正に関して

役所に提出後、その記載事項（診断傷病名等を含む）の訂正の必要が生じた場合は、その旨を死亡届出先の市区町村の戸籍係に連絡の上、正しい死亡診断書・死体検案書と、誤記の理由を記載した書面を添付して提出します。なお、この取り扱いは、死亡届が提出された年の翌年の5月末日までとなっています。

（参考）

死亡届書に添付した死亡診断書の誤記訂正について（昭和48年8月23日 民二第6498号、統発第330号 各法務局・地方法務局長・都道府県知事宛 法務省民事局長、厚生省大臣官房統計調査部長連名通達）

死亡届書に添付した死亡診断書の誤記訂正申出の取扱いについて（昭和54年9月1日 民二第4481号、統発第317号 各法務局・地方法務局長・都道府県知事宛 法務省民事局長、厚生省大臣官房統計情報部長連名通達）

E38 破傷風

58歳の男性、平成X年6月15日午前11時頃、畑で農作業中に鎌で誤って左手第2指を切った。そのときには自分で傷の処置をして、病院には行かなかったという。

受傷3日後から開口障害と嚥下障害が出現し、5日後に病院に入院、治療を受けた。その後、硬直性の痙攣も出現した。破傷風菌が同定され、呼吸筋の麻痺も出現し、治療を行ったが受傷7日後に死亡した。

この場合に発行する書類、「死亡の原因」「死因の種類」の記載例を示します。

【適切な記載】

(14)	死亡の原因 ◆1欄、3欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	(ア)直接死因	破傷風		約5日
		(イ) (ア)の原因	左第2指切創	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約7日
		(ウ) (イ)の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	
		(エ) (ウ)の原因			
		直接には死因に関与しないが1欄の傷病名に影響を及ぼした傷病名等			
	手術	①無 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和
	解剖	①無 2有	主要所見		
(15)	死因の種類	1病死及び自然死 外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火輪による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因死 12不詳の死			
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき 平成 X年 6月 15日 午後 11時 頃分	傷害が発生したところの種類 1住居 2工場及び建築現場 3道路 ④その他 (畑)	傷害が発生したところ ○○ 都道府県 △△ 市区町村	◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください 手段及び状況 畑で農作業中、誤って手を切ったという。
(17)	生後1年未満で病死した場合の追加事項	出生時体重 グラム 1無 2有	単胎・多胎の別 1単胎 2多胎 (子中第 子) 3不詳	妊娠週数 満 週 前回までの妊娠の結果 出生児 人胎 死産児 (妊娠満22週以後に限る)	
(18)	その他特に付言すべきことから 受傷3日後から開口障害があり、入院して治療を受けたが、症状が進行して死亡したという。				

【解説】

破傷風による死亡と考えられた事例です。

破傷風は創傷感染なので、損傷と因果関係があると考えられる場合には、単純に病気による死亡ではなく、外因死と考えるべきと思います。

死因の種類を考える場合、因果関係にも十分な考慮が必要です。

E39 急性膵炎

65歳の男性、前日から腹痛があり、痛みが増強したため、平成X年10月5日午前5時頃、救急車で病院に搬送された。

検査では著明な炎症所見、アミラーゼ上昇を含む肝胆道系酵素の上昇がみられ、腹部CT検査で膵臓の腫大がみられた。アルコールの多飲や胆石の既往はない。治療を行ったが、全身状態が悪化し、発症3日目に死亡した。病理解剖で、血性腹水の貯留と膵臓の壊死と出血が確認された。

この場合に発行する書類、「死亡の原因」「死因の種類」の記載例を示します。

【適切な記載】

(14)	死亡の原因 ◆1欄、2欄ともに病態の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	施設の名称			
		(ア) 直接死因	急性出血性膵炎	約3日	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月5時間20分)
		(イ) (ア)の原因			
		(ウ) (イ)の原因			
(エ) (ウ)の原因					
	手術	①無 ②有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和 年 月 日
	解剖	①無 ②有	主要所見	膵臓の出血と腫大。血性腹水が貯留。	
(15)	死因の種類 ① 死及び自然死 外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火傷による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 9他殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死				
(16)	外因死の追加事項 ◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分 傷害が発生したところの種別 1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他(畑)	傷害が発生したところ 市 区 町 村 都 道 府 県	手段及び状況	

【解説】

直接死因は「急性出血性膵炎」と考えられます。

急性膵炎の直接死因としては、発症後早期の場合高度の脱水に伴う循環不全によるものが多いですが、死亡に至る病態について、具体的に特定できない場合は原死因を直接記載することでよいと思います。また、膵炎の原因について不明な場合は「特発性急性膵炎」と記載したほうがよいです。

E40 アルコールおよびウイルスによる肝硬変

58歳の男性。大酒家。約15年前に肝硬変と診断されている。C型肝炎ウイルス抗体が陽性である。飲酒は継続していたが、腹水の貯留が著明で、全身倦怠感が強く、徐々に飲酒もできなくなり、11月10日、入院となった。

検査にて肝臓癌は確認できていないが、アンモニア値が高値を示した。入院後、傾眠傾向が出現し、治療を受けたものの、約20日後に死亡した。

この場合に発行する書類、「死亡の原因」「死因の種類」の記載例を示します。

【適切な記載】

(14)	死亡の原因 ◆1欄3欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	I	(ア) 直接死因	肝不全	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	不詳	
		II	(イ) (ア)の原因	アルコール性肝硬変		約15年	
		III	(ウ) (イ)の原因				
		IV	(エ) (ウ)の原因				
		V	直接には死因に関与しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等				
(15)	手術 ①欄 2有 解剖 ①欄 2有	部位及び主要所見				手術年月日	平成 昭和 年 月 日
		主要所見					
(16)	死因の種類 ① 病死及び自然死 外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12 不詳の死	傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分		傷害が発生したところ 1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()	傷害が発生したところ 市 区 町 村	都 道 府 県	
◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください 手段及び状況							

【解説】

本文からは、死因は肝硬変を基礎とした肝不全と考えられます。

肝硬変の原因については、アルコールとウイルスの両者が関与していると考えられますが、より関与が大きいと考えられる要因があれば、そちらを記載します。

E41 多系統萎縮症

58歳の男性、約7年前に多系統萎縮症と診断され、自宅療養していた。

X年5月10日朝、家族が部屋に行ったところ、ベッドの中で死亡しているのを発見された。連絡を受けた主治医が自宅に赴き、死亡を確認した。

主治医が警察に届出を行い、検視の結果、警察は事件性がないと判断した。主治医は、死因を多系統萎縮症に起因する突然死と診断した。

この場合に発行する書類、「死亡の原因」「死因の種類」の記載例を示します。

【適切な記載】

(14)	死亡の原因 ◆1欄、3欄ともに病態の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	施設の名義	多系統萎縮症	約7年	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)
		(ア) 直接死因			
		(イ) (ア)の原因			
		(ウ) (イ)の原因			
		(エ) (ウ)の原因			
目	直欄には死因に関与しないが1欄の傷病名に影響を及ぼした傷病名等				
手術	①無 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和 年 月 日	
解剖	①無 2有	主要所見			
(15)	死因の種類	①病死及び自然死 不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死			
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ 1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()	都道府県 市区町村	
	◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください	手段及び状況			

【解説】

死因を「多系統萎縮症に起因する突然死」と診断した事例です。

多系統萎縮症では、時に突然死がみられるといわれます。突然死の機序については分からない場合もありますが、死亡への直接の関連が考えられる場合は、記載してよいと思います。なお、死亡に至る状況等が不明な場合（「異状」と考えられる場合）は、警察への届出を行って、検視を受ける場合もあります。

なお、死体で発見された場合の死亡時刻は、死亡を確認した時刻ではなく、ご遺体の体温の変化、死後硬直等から判断します。

E42 白血病による多発性脳出血

85歳の男性。近医で血液検査の際に白血球数の異常を指摘され、総合病院を受診したところ、白血病と診断された。治療のために入院した翌日、意識状態が急激に悪化し、頭部CT検査にて多発性の脳出血が確認された。

治療を受けるも、入院3日目に死亡した。

この場合に発行する書類、「死亡の原因」「死因の種類」の記載例を示します。

【適切な記載】

(14)	死亡の原因 ◆1欄、3欄ともに病態の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	I	(ア) 直接死因	多発性脳出血		約2日
		(イ) (ア)の原因	白血病	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください。ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	不詳	
		(ウ) (イ)の原因				
		(エ) (ウ)の原因				
		II	直接には死因に関係しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等			
		手術	① 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和
		解剖	① 2有	主要所見		
(15)	死因の種類 ① 死及び自然死 ② 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } ③ その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11 その他及び不詳の外因 ④ 12 不詳の死					
(16)	外因死の追加事項 ◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください		傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ 1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()	都道府県 市 区 町村 郡	手段及び状況

【解説】

白血病の診断を受け、多発性の脳出血をきたした事例です。

多発性の脳出血は、白血病に起因するものと考えられ、直接の因果関係があるものと判断される場合は、記載例のようになります。

病型がはっきりしている場合はそれらを記載し、はっきりしない場合でも可能な限り詳細な記載をお願いします。

E43 慢性腎不全

65歳の男性。約20年前から週3回人工透析を行っている。X年6月28日朝、家族が部屋に行ったところ、ベッドの中で反応しないため、救急車で病院に搬送されたが、死亡が確認された。

外来担当医が警察に届出を行い、警察は検視の結果、事件性はないと判断した。死後CTで冠状動脈の著明な石灰化が確認され、虚血性心疾患による死亡が推測された。

この場合に発行する書類、「死亡の原因」「死因の種類」の記載例を示します。

【適切な記載】

(14)	死亡の原因 ◆1欄、2欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	I	(ア) 直接死因	虚血性心疾患(推定)		不詳
		(イ) (ア) の原因			免病(発症)又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例: 1年3か月、5時間20分)	
		(ウ) (イ) の原因				
		(エ) (ウ) の原因				
		II	表欄には死因に関係しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等	慢性腎不全		約20年
手術	① 2有	部位及び主要所見		手術年月日	平成 年 月 日 昭和 年 月 日	
解剖	① 2有	主要所見				
(15)	死因の種類 ① 死及び自然死 外因死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火端による傷害 } { 6窒息 7中毒 8その他 } その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11 その他及び不詳の外因 } 12 不詳の死					
(16)	外因死の追加事項 ◆伝聞又は確定情報の場合でも書いてください		傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ 1 住居 2 工場及び建築現場 3 道路 4 その他 ()	都道府県 市区町村	手段及び状況

【解説】

慢性腎不全にて透析療法を受けている患者の死亡例です。

検案所見のみで、死因を判断することは難しいですが、可能な限り得られたデータから総合的に判断します。諸般の事情から推定死因にとどまる場合も少なくありませんが、その場合は「(推定)」と記載してかまいません。

E44 アルコール性心筋症

52歳の男性、大酒家。X年3月28日朝、自宅室内で死亡しているのを発見された。

明確な外傷はなく、警察は検視の結果、事件性はないと判断した。死後CT検査でも頭蓋内に出血なく、肺うっ血以外に有意な所見はなかった。既往歴として、アルコール性心筋症が疑われており、死因の可能性が高いと判断した。この場合に発行する書類、「死亡の原因」「死因の種類」の記載例を示します。

【適切な記載】

(14)	◆1欄、3欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	施設の名義	(ア)直接死因 アルコール性心筋症(推定)		不詳
		(イ) (ア)の原因	免病(免症)又は受傷から死亡までの期間		
		(ウ) (イ)の原因	◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)		
		(エ) (ウ)の原因			
		表層には死因に関連しないが1欄の傷病病者に影響を及ぼした傷病病等			
	手術	① 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和 年 月 日
	解剖	① 2有	主要所見		
(15)		① 死及び自然死 外因死 不慮の外因死 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5墮、火災及び火傷による傷害 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 12不詳の死			
(16)	外因死の追加事項	傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分 傷害が発生したところの種別 1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他() 手段及び状況	傷害が発生したところ	都道府市区町村	

(17)	生後1年未満で病死した場合の追加事項 ◆法検又は確定情報の場合でも書いてください	出生時体重	単胎・多胎の別		妊娠週数
		グラム	1単胎	2多胎 (子中第 子)	満 週
		妊娠・分娩時における母体の病態又は異状 1無 2有 [] 3不詳		母の生年月日	前回までの妊娠の結果 出生児 人胎 死産児 (妊娠満22週以後に限る)
(18)	その他特に付言すべきことから 死後に行ったCT検査にて、肺のうっ血が確認された。				

【解説】

大酒家の自宅死亡例です。

死後CTについての検査結果の項目はありませんが、記載する場合は「その他特に付言すべきことから」に簡潔に記載してもよいと思います。

推定死因にとどまる場合も少なくありませんが、その場合は「(推定)」と記載してかまいません。

E45 癌患者の肺炎

82歳の男性、約1年半前に右上葉の扁平上皮癌の診断で、X年5月20日に右上葉切除術を受けた。1年後に右肺に再発が確認されたが、残存肺機能の低下があり、手術は困難であり化学療法を継続することとなった。再発巣が増大して区域気管支を閉塞し、無気肺を生じ、約1週間前からブドウ球菌による肺炎を併発して死亡した。

この場合に発行する書類、「死亡の原因」「死因の種類」の記載例を示します。

【適切な記載】

(14)	死亡の原因 ◆1欄目欄ともに疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにしてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	(ア) 直接死因	ブドウ球菌肺炎		約1週間
		(イ) (ア)の原因	右肺扁平上皮癌	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間	約1年半
		(ウ) (イ)の原因		◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	
		(エ) (ウ)の原因			
		表欄には死因に関連しないが1欄の傷病経過に影響を及ぼした傷病名等			
手術	1無 ②有	部位及び主要所見	右上葉切除術、右上葉の扁平上皮癌	手術年月日	昭和 X年 5月20日
解剖	①無 2有	主要所見			
(15)	①死及び自然死	不慮の死因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の死因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の死因 } 12不詳の死			
(16)	外因死の追加事項 ◆凶犯又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したとき 平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところの種類 1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()	傷害が発生したところ 都道府市区町村	手段及び状況

【解説】

癌の治療経過中に、肺炎での死亡例です。

肺炎自体は、細菌感染によるものですが、再発巣の扁平上皮癌の増大に関連した変化であり、原原因は癌によると考えられます。直接死因の肺炎のみならず、その原因と考えられる癌についての記載をお願いします。また、肺炎の原因についても、その病因が特定できれば記載をお願いします。

E46 関節リウマチ患者の間質性肺炎急性増悪

72歳の女性、約25年間関節リウマチの治療を受けている。
2年前から咳や息切れを自覚し、間質性肺炎の診断を受けている。3週間前から呼吸困難が進行したため入院し、ステロイド投与等を受けるも、呼吸機能が悪化し、死亡した。

この場合に発行する書類、「死亡の原因」「死因の種類」の記載例を示します。

【適切な記載】

(14)	死亡の原因 ◆1欄、3欄ともに病態の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください ◆1欄では、最も死亡に影響を与えた傷病名を医学的因果関係の順番で書いてください ◆1欄の傷病名の記載は各欄一つにししてください ただし、欄が不足する場合は(エ)欄に残りを医学的因果関係の順番で書いてください	施設の名称			
		(ア) 直接死因	間質性肺炎	発病(発症)又は受傷から死亡までの期間 ◆年、月、日等の単位で書いてください ただし、1日未満の場合は、時、分等の単位で書いてください (例：1年3か月、5時間20分)	約2年
		(イ) (ア)の原因	関節リウマチ		約25年
		(ウ) (イ)の原因			
(エ) (ウ)の原因					
	目	直欄には死因に関係しないが1欄の傷病名に影響を及ぼした傷病名等			
	手術	① 2有	部位及び主要所見	手術年月日	平成 年 月 日 昭和 年 月 日
	解剖	① 2有	主要所見		
(15)	死因の種類 ① 病死及び自然死 不慮の外因死 { 2交通事故 3転倒・転落 4溺水 5煙、火災及び火焔による傷害 } 6窒息 7中毒 8その他 その他及び不詳の外因死 { 9自殺 10他殺 11その他及び不詳の外因 } 12不詳の死				
(16)	外因死の追加事項 ◆凶器又は確定情報の場合でも書いてください	傷害が発生したとき	平成・昭和 年 月 日 午前・午後 時 分	傷害が発生したところ	都道府県 市 区 町村
		傷害が発生したところの種類	1住居 2工場及び建築現場 3道路 4その他()		
		手段及び状況			

【解説】

関節リウマチに伴う間質性肺炎での死亡例です。

関節リウマチでは、間質性肺炎を伴う場合があり、しばしば重症化し、予後にも影響します。

本例では間質性肺炎の急性増悪により死亡したと考えられ、原死因は関節リウマチと考えられます。

死亡の原因の記載の際には、疾病の因果関係を考慮した記載をお願いします。